

J01-01 ローイング開始の条件

The Start of This Sport

ローイング＝ハードスポーツのイメージは一面にすぎません。水面を滑るように走る素敵な快感は、ボートならではのものです。ぜひボートを始めてみてください。

1 タフでなければ？

Toughness ?

レースに「勝つ」には、厳しい練習に耐えるタフな精神と肉体が必要です。それなくしては本当に勝つことはないでしょう。しかし重要なことは、「それがなければローイングができないとか、レースチャレンジしてはいけない」ということではありません。「勝てない(かもしれない)」ということ、「チャレンジしてはいけない」ということは決定的に違います。ローイングは、誰でも楽しむことができます。楽しむだけでもかまいません。また「弱いからこそ強くなりたい」と、レースにチャレンジしても一向にかまわないわけです。

必要なことは、「誰が漕げるか/漕げないか」ではなく、「誰もが、それぞれ、どのようにしたら漕げるか、どのように楽しむか」です。ローイングの自由度を、自分から窮屈(きゆうくつ)なものにしてはいけません。ローイングは常にその原点、水の上に漕ぎ出す本能的なスリルと楽しみ、心の落ち着きを、失ってはいけません。



誰もがローイングに浸る自由がある。

2 泳げることは必要か？

Can you swim ?

沈際の安全確保のために、もちろん泳ぐことが好ましいし、泳力を確保することが求められます。しかし、もしかしら、「泳ぎが苦手、それでも水の上に出てみたくて、それだからこそ、ボートが漕ぎたい」のかもしれない。

その、自由な水上への望みをあきらめなければならぬ理由はどこにもありません。

そのリスクを承知し、自らの責任で安全確保を考える自覚があれば、良い指導者は、きっと泳ぎの苦手な人が、ローイングのために最低限必要な泳力、つまり、船から投げ出されたときに、沈まないでしばらく浮かんでいられる能力や、艇まで泳いで、つかまる能力の確保を、手伝ってくれるでしょう。



泳ぐことが苦手な人こそローイングにチャレンジしてほしい。

3 ハンディキャップについて

Handicap ?

心身に障害がある人でも、もちろんローイングのチャンスはあるべきです。現実には、少なくとも日本のローイングではまだ、ハンディキャップを持つ人たちにとって十分な受け入れ準備が

なく、また自己開拓の機会も少ないのが実情です。

しかし、目立たないけれど、そのことに理解を示すクラブや指導者もあり、ローイングにおけるバリアフリーについて努力している人たちがいます。まだ道は遠いのですが、すべての人がローイングの場に気持ち良く参加できるように、これからのローイング世界を作っていくなければなりません。

あなたの身近に、もしボートをやりたいのだけれどハンディキャップが心の壁になっている人がいれば、まず勇気を持って、(例えばあなたのローイングの情熱の一部を削ってでも)その人のためにできることを少し探してみましょう。またはあなた自身がそうであれば、やってみようという勇気を奮い立たせて、できることをはじめてみましょう。



片足でも漕げるよう工夫されたシートで力漕する片足のスカラー



片手の障害に対し、ハーネスを工夫してハンドルとリンクさせ漕ぐ2 - www.NLRoei.nl の写真集より抜粋、オランダ TweeHead 2004 での風景

4 マナーはローイングの大前提！

Manner!

ローイングはマナーのスポーツです。いくつかの基本的なマナーを記しておきます。(もし、あなたがマナーの悪い人間だとすれば、ボートをすることと同時にマナーの自己改善もはかりましょう。)

艇庫では、誰にでも「必ず」挨拶(あいさつ)しましょう。「おはようございます」「こんにちは」「しつれいします」...

知った人にだけしか挨拶していませんか？

挨拶しないように視線をそらせたり、タイミングを外したりしていませんか？ そうではなくて...

見かけたら、自分からまず近づき、積極的に挨拶してみましょう！お互いの関係がとて良くなるはずですよ。

整理整頓。人が汚したもので、みかけたらきれいにしておく心がけが大切です。更衣室などを離れるときは、いま一度きれいにいきましょう。

他の艇やオールに、むやみに触れてはいけません。また、艇によりかかったりすることは厳禁です！

オールの上をまたがないようにしましょう。